

平成 19 年 5 月 教育委員会定例会会議録

1 開会の日時

平成 19 年 5 月 25 日（金） 午前 9 時 30 分

2 出席委員

奥寺 康彦	委員長
出光 ケイ	委員
齋藤 道子	委員
三浦溥太郎	委員

3 出席説明員

管理部長（教育長職務代理者）	大坂 茂夫
管理部総務課長	長澤 潤
管理部学校再編担当課長	奥田 幸治
管理部教職員課長	阿部 信行
管理部総合高校担当課長	井上 昭
管理部学校管理課長	高田 利男
生涯学習部長	外川 昌宏
生涯学習部生涯学習課長	永塚 高行
生涯学習部学校教育課長	渡辺 浩
生涯学習部学校保健課長	横山 治久
生涯学習部スポーツ課長	大場 智和
教育研究所長	阿部 優子
中央図書館長	根本 博行
自然・人文博物館博物館運営課長	柳田 泰光
美術館美術館運営課長	森山 武

4 傍聴人 なし

5 議題及び議事の概要

委員長 開会を宣言

委員長 本日の会議録署名人に齋藤委員を指名した。

本日の議案は人事案件のため秘密会とすることを提案、「総員挙手」をもって秘密会とすることを決定。

教育長職務代理者報告

それでは平成 19 年 4 月 21 日から本日までの所管事項報告についてご報告させていただきます。3 点ございます。まず 1 点目は横須賀美術館についてです。各委員の皆様には、お忙しいところ内覧会にもご出席いただきまして誠にありがとうございました。先月 28 日に開館し、1 ヶ月が経過しております。本日までの状況につきましては、後ほど美術館運営課長の森山からご説明させていただきます。

2 点目は全国選抜早起き野球大会についてです。5 月 19 日(土)、20 日(日)に横須賀スタジアムを中心に、第 13 回全国選抜早起き野球大会が開催されました。本大会は、全国で約 12,000 チームのなかから、予選を勝ち抜いた 16 チームが参加いたしました。開会式には、来賓として、市議会議長はじめ小泉前首相にもご出席をいただき始球式をお願いいたしました。2 日間の熱戦の末、兵庫県代表の停主というチームが優勝いたしました。

3 点目は横須賀市議会議員選挙と第 2 回定例会についてです。平成 19 年 4 月 22 日横須賀市議会議員選挙が実施され、43 名の方が当選されました。早速 5 月 31 日から 9 日間の会期で市議会第 2 回定例会が開催されます。教育委員会に関しては、教育分野や生涯学習分野で多数の課題がございます。市議会議員の皆様からは、多数の意見がよせられることと思われまます。

私どもとしましては、市民の皆様から寄せられるご意見として、ひとつひとつ真摯に対応していきたいと思っております。以上ご報告させていただきます。

委員長 質問等なく、その他の報告事項を聴取することを宣言

(学校再編担当課長)

本年の 3 月に実施いたしました「学校統合についてのアンケート集計結果について」報告いたします。

このアンケートは、昨年 4 月に陽光小学校と鶴久保小学校を統合いたしましたが、ほぼ 1 年を経過し学校行事等も一巡し、児童の統合後の学校における生活も落ち着いてきたことから行ったものであります。

お手元に、32 ページの「学校統合についてのアンケート集計結果」がございますが、なにぶんにもボリュームがありますので、後ほどお目通しいただくようお願いいたします。報告は、別途提出いたしております概要版を使いまして説

明させていただきます。

概要版の1ページをご覧ください。調査の概要ですが、対象は今の鶴久保小学校の昨年度の2年生から6年生の児童・保護者及び教職員であります。学校を経由いたしまして配布・回収を行い、実施期間は本年3月1日から8日までの期間でございます。回収数・回答率はご覧のとおりであります。

なお、今回のアンケートの詳細につきましては、中段に記載しておりますとおり、教育委員会のホームページや市役所1階にございます市政情報コーナーで市民の皆さまに提供する予定でございます。

まず児童アンケートについてご説明いたします。児童アンケートは、549人から回答がございまして、「学校が統合してクラスや友だちが増えましたが、今の鶴久保小学校には慣れましたか？」という問いに対しては、98%の児童が「慣れた」、「少し慣れた」と回答しております。「学校が統合することは心配でしたか？」という問いに対しては、69%の児童が「心配ではなかった」と回答していますが、元陽光小の児童だけだと、52%が「少し心配だった」、「心配だった」と回答しております。今の鶴久保小学校について、「教室での様子」、「休み時間の様子」、「遠足や運動会の様子」、「クラブ活動について」聞いたところ、項目によりましては80%を超える児童が、「新しい友だちができた」、「学校がにぎやかになった」、「遊ぶ仲間が増えた」、「人数が増えて行事が楽しくなった」というような回答であります。

2ページをご覧ください。「先生の人数が増えたこと」につきましては、半数の児童が、「先生の名前を覚えるのが大変になった」と回答しております。一方、「いろいろな先生におしえてもらえるのでよかった」、「たくさんの先生と話ができてよかった」と3割の児童が回答しております。

続きまして保護者アンケートでございます。保護者アンケートは464人から回答があり、「統合に賛成でしたか？」という問いに対しては、65%の保護者が「賛成」、「どちらかという賛成」であり、「反対」、「どちらかという反対」と回答した保護者は9%でした。

「統合してどうでしたか？」という問いには、55%の保護者が「良かった」と回答しています。一方「よくなかった」と回答した保護者は、元陽光小学校で11%、元鶴久保小学校で2%でした。「友だちが増えた」、「人数が多くなり活気が出た」という肯定的な意見がある一方、「よくなかった」と回答した方の意見として、「人数が少ない環境から多いところへの統合だったので、親の不安感は大いいものでした。」という意見がありました。

「統合する前に心配なことはありましたか？」という問いには、全体の31%、元陽光小学校だけで見ると68%の保護者が「心配なことがあった」と回答しています。一方、元鶴久保小学校の保護者では、77%が「心配なことはなかった」

と回答しており、両校の保護者の捕らえ方の違いがでております。

「統合してから心配なことはありますか？」という問いに対しては、全体の20%、元陽光小学校だけでみると47%の保護者が「心配なことがある」と回答しており、統合する前後で比較すると、その割合は低くなっています。「統合の前後でお子様に関係何か変化はみられましたか？」という問いに対しては、全体の24%、元陽光小学校だけでみると46%の保護者が「変化が見られた」と回答しています。変化の内容といたしましては、「友だちが増えた」、「行動範囲が広がった」、「毎日が楽しそう」というものです。「統合して児童数が増えたことについてどのように思うか」という問いには、49%の保護者が「増えてよかった」と回答しています。一方「増えない方がよかった」と回答した保護者は10%でした。「運動会などの学校行事についてどう感じられましたか？」という問いに対しては、41%の保護者が「人数が増えて活発になった」と回答しています。一方、元陽光小学校の保護者の28%が「人数が増えて大変になった」と回答しています。運動会は、人数が増えたせいか、開催時間が長いわりに自分の子どもの出番が短く感じられたという意見もありました。

3ページをご覧ください。続きまして教職員アンケートでございます。教職員アンケートは24人から回答があり、「統合に賛成でしたか？」という問いに対しては、34%の教職員が「賛成」、「どちらかという賛成」であり、「反対」、「どちらかという反対」と回答した教職員は12%で、「どちらともいえない」という回答が54%でした。

「統合してどうでしたか？」という問いには、「どちらともいえない」という回答が75%と一番多く、「よかった」という回答は25%でした。一方「よくなかった」と回答した教職員はおりませんでした。「児童の人間関係への影響は見られたか？」という問いには、「どちらともいえない」「わからない」という回答が62%と一番多く、「良い影響が見られた」「悪い影響が見られた」という回答はそれぞれ13%でした。

「学習活動への規模が大きくなったことによる影響」については、「どちらともいえない」「わからない」という回答が71%と一番多く、「良い影響が見られた」という回答は17%でした。「良い影響が見られた」と回答した方の意見として「競争心が出てくると思う」「学年での行事などに活気が出て、楽しくできる」という意見がありました。「悪い影響が見られた」と回答した方の意見として「集会の集合に時間がかかる」という意見がありました。「教育上のよい効果はありましたか」という問いには、「学年間、異年齢間の交流がさかんになった。地域の方々が数多く参加してくれるようになった」「多くの子どもがいるといろいろな面で刺激し合い、競い合って伸びていけるように感じた。学年で学習発表会をしたときなど、たくさんのグループに分けることができ、盛り上がっ

た」という意見がありました。

「教育的効果が低下したと思われる点」については、「個に応じたきめ細かな指導をしていくことが難しくなった」「学級数が増えると、特別教室や、運動場の割り当てに余裕がなくなり、教育的効果をねらった時間割が組みにくくなる。」という意見がありました。「小規模校における規模の適正化は必要であるか？」という問いには、「どちらともいえない」42%という回答が一番多く、「必要」という回答は29%でした。

4ページをご覧ください。自由意見の抜粋ですが、児童も保護者も教職員も概ね統合をして良かったという意見が大勢を占めております。また、鶴久保小学校へお邪魔して、校長・教頭先生からお聞きした子どもたちの様子についてのお話しかからも、特に問題があるということはありませんでした。

本年4月に統合いたしました、坂本中学校に対しましても来年になりましたら、ヒアリングなどを通して統合の検証を行いたいと考えております。そして、これらのアンケート結果などから頂戴した意見を、今後の学校再編に際して活用させていただく考えでおります。以上でアンケート結果の概要についての説明を終わります。

（奥寺委員長）

教職員の方の回答が、「どちらともいえない」が多いですが、自分達の意見をいいにくいという雰囲気があるのですか。

（学校再編担当課長）

その点については、非常に意外でした。アンケートですから無記名です。勿論、現在の鶴久保小の教員であることは分かりますが、教員が、子どもが増えたことや日々の教育環境の変化を、あまり感じていないのか。悪くなったという意見も少ないですし、私どもとしては保護者と子ども達の大多数が良かったという意見だったので、良かったのではないかと考えています。

（出光委員）

今の話につながるのですが、先生の回答率が低いですね。もちろん大変忙しいとは思いますが、せっかくこれがこれからの学校の適正規模のひとつの目安になるかもしれないので、先生方には意欲をもって参加いただければと思います。逆にこちら側からいざなうことが出来たらよかったかなとも思います。

次回、坂本中学校でアンケートを行う際には、より先生が書きたくなるような、先生だからこそ回答できる質問項目の設定や ×で簡略化するなど、工夫いただければと思います。

(学校再編担当課長)

鶴久保小学校のアンケートはこれで終了したわけですが、坂本中学校の統合の結果の検証につきましては、現時点ではアンケートではなく、実際に学校に伺ってヒアリングを行おうと考えております。理由としましては、先程話が出た教職員のことでもあります。鶴久保小学校と陽光小学校の統合の場合には、陽光小学校から百数十名の児童が移ったのですけれども、坂本中学校へは桜台中学校から二桁の生徒しかいません。アンケートをとっても一方は 300 何人、一方は数 10 人ということになってしまい、アンケートの結果もいびつに出てくる可能性がありますので、実際に伺ってヒアリングしようと考えております。従いまして教職員もアンケートではございませんので、何人かピックアップした教職員になるかと思うのですが、ヒアリングをさせていただいて、生の声を拾えば、今後の学校再編に活かしていけるのではと考えております。

(三浦委員)

少人数から大人数のなかに入っていくって、うまく適応できなかった児童はいらっしゃいますか。

(学校再編担当課長)

どこの学校でも抱えている問題はあると思いますが、統合したことが原因で、適応できなかったというようなケースはないように聞いています。

(齋藤委員)

先生方へのアンケートで、児童の人間関係の影響がありましたかという質問で、良い影響が見られた、悪い影響が見られたがともに 13%ということでしたが、悪い影響が見られたという意見について、何か具体的な意見は出ていますか。

(学校再編担当課長)

本書の 20 ページ、21 ページに具体的記載がございます。問 6 の学校規模が行事においてどのような影響があるかについては、時間がかかるとかそういった意見が、特別活動については、体育館を使った行事がしにくくなるというような意見が、また職員からの意見だと思いますが、人数が増えた関係で騒々しくなったり、集合が遅くなったりということもあるようです。

(齋藤委員)

問4についてはいかがでしょうか。

(学校再編担当課長)

問4については、具体的な意見はありません。

(齋藤委員)

良い影響と悪い影響が同数というところが気になります。今後もし同じような統合がある場合にデータとして必要になると思うので、どういうところに悪い影響が出たということについて、ヒアリングなどで忌憚のない意見を聞いておいた方がいいと思います。

(学校再編担当課長)

意見を承りました。もう一度聞いてみたいと思います。

委員長 他に質問はなく、次の報告事項を聴取することを宣言

(生涯学習課長)

それでは(仮称)コミュニティセンターの設置についてご説明いたします。

これまで、公民館・地域自治活動センターの一元化と各行政センターによる管理運営ということを平成18年8月及び11月の教育委員会定例会においてもご報告させていただきましたが、この間、定期的な検討会を開催するなど、方向性が示されてきましたので、あらためてご報告をさせていただきます。

資料の1の趣旨ですが、教育委員会所管の公民館施設11箇所と市長部局である市内に10箇所の地域自治活動センターを、地域の行政拠点である行政センターに移管し、一元管理することにより利用形態が統一され、わかりやすく利用しやすい施設となります。また、講座などにつきましても内容を充実させてゆき、より多くの施設での開催が可能となります。

また、行政センターが管理運営することにより、地域住民と一体となって特色を生かした魅力あるまちづくりを進めるための拠点となります。2の新施設の概要といたしましては

(1)の施設名称は「(仮称)コミュニティセンター」に統一をいたします。

(2)の設置根拠は、これまでの、公民館条例と地域自治活動センター条例を廃止し、新たに「(仮称)コミュニティセンター条例」を制定いたします。

(3)設置時期は、平成20年4月1日になります。

(4)これらの施設の所在地及び名称につきましては3ページに記載の通りとなります。

(5)の開館日以降につきましては、4ページでご説明いたします。

4ページは公民館・地域自治活動センターとの比較表になっております。左が現在の施設で、右が新施設です。中段の施設数ですが、公民館、地域自治活動センターをあわせ、21館となります。その下の、休館日、貸館時間及び窓口受付時間ですが、これまで公民館と地域自治活動センターとは異なっておりましたが、これらを統一し、休館日は年末年始のみに、貸館時間を午前9時から午後9時まで、窓口受付時間は午前8時30分から午後9時までになります。米印で記載してありますように、公民館では、開館日数が増えるとともに、窓口受付の時間が延長され、開館時間内全ての時間帯で受付ができるようになり、市民の方が利用しやすくなります。また、主な事業では、これまで、地域自治活動センターは貸し館のみの運営でしたが、今後は、これらの施設も使い公民館で行っていた講座の開催も行なってまいります。なお、所管につきましては各行政センター及び市民生活課となります。

2ページにお戻りください。3の今後の予定されるスケジュールですが、記載の通り、8月にパブリックコメントを実施し、11月の市議会第4回定例会に条例議案を提出し、可決いただきましたらサイン改修などに入ることになっております。

なお、これらの進行につきましては、市民部と教育委員会と連携を図り、同時に進めてまいります。また、本件につきましては、市議会第2回定例会において、教育経済常任委員会及び総務常任委員会で同様の内容で報告する予定となっておりますので、本日の教育委員会におきましてご報告をするものであります。

(出光委員)

旧公民館と旧自治活動センターというのは規模が違うのでしょうか。それともあまり変わらないのでしょうか。

(生涯学習課長)

自治活動センターは、会議室や運動ができる施設を備えていまして、規模は施設ごとに大小があります。

(教育長職務代理者)

公民館というのは行政センターの中にあることが多くて、自治活動センターというのは単独であり、規模としては大きめになっています。

(出光委員)

公民館というと大きな催しものやっていて、自治活動センターというと各団体が自分達の活動をしているというイメージがあるのですが、こういう時代なので統合して管理するという流れだとは思いますが、両方ともコミュニティーセンターとって、催しものがある・なしなど違いがあると、市民の方がとまどうのではという懸念が少しあります。

(生涯学習課長)

公民館というのは基本的に行政センターに付随していますが、今まで行政センターがなかったエリアに自治活動センターが立地し、貸館のみを行っていました。今回の統合することによって、自治活動センターでも公民館で行っている講座ができるようになって、市民の方々が近くで講座も受けられる、そのようにしていきたいと考えています。

委員長 他に質問はなく、次の報告事項を聴取することを宣言

(学校教育課長)

先月4月24日文科科学省により実施された「全国学力・学習状況調査」について、ご報告いたします。1枚目をご覧ください。調査の目的及び対象ですが、上部に記載されておりますように、学力や学習意欲が低下しているのでは等の背景を受け、児童生徒の学習状況を把握・分析するとともに、義務教育の機会均等と水準向上のため、今後の改善に役立てるという目的で、全国の小学校6年生、中学校3年生を対象に行われました。調査内容は、児童生徒については2種類、学校については1種類の計3種類の調査が行われました。

児童生徒についての 番目として、教科に関して、小学校は国語と算数、中学校は国語と数学の2教科について、それぞれ、「知識に関する問題」をAとして、「活用に関する問題」をBとして、2つの区分について行われました。また、番目として、教科とは別に、児童生徒質問紙として、生活習慣や学習環境等についての調査が行われました。学校に対する調査としましては、各学校の指導状況などに関して、学校長が回答しました。

2枚目をご覧ください。当日の具体的日程ですが、小学校、中学校とも、通常の時間割の中で実施されました。また、下部には、各教科のA区分、B区分の内容の趣旨が記されております。

3枚目につきましては、本調査の前に実施された予備調査の内容です。本調査の様子が分かるものです。

4枚目及び5枚目をご覧ください。調査結果について、国が公表する内容と教育委員会と学校等に提供される内容が記載されております。国が公表する内

容については、4枚目の上部をご覧ください。調査した3つの内容について、国全体、都道府県別、地域の規模別の結果が公表されます。国が提供する内容については、5枚目をご覧ください。県教委には県全体・市町村・学校毎の結果など、市教委には市全体・学校毎の結果など、学校には学校全体・学級毎・児童生徒毎の結果などが提供されます。また、児童生徒には、各学校より、自身の結果が提供されます。公表に当っては、学校間の序列化や過度な競争につながらないように配慮するということから、市教委としましては、学校毎の結果などは、公表いたしません。

なお、資料は添付しておりませんが、この調査における参加状況ですが、文部科学省の発表によれば、1市を除いた全て国公立学校で実施され、233万人以上が参加したと発表されました。横須賀市については、小学生98%（3,537人）中学生は95%程度（3,265人）人数にして、6,802人の子どもたちが参加しました。

委員長 質問はなく、次の報告事項を聴取することを宣言

（スポーツ課長）

平成19年度のこどもの日プール無料開放についてご報告させていただきます。スポーツ課所管のプールは3つで、全て室内プールとなっています。不入斗公園のサブアリーナプール、追浜公園の北体育会館プール、そして久里浜の花の国プールの3つであります。平成15年度から多くの子どもたちに利用していただいて、水泳や水遊びの楽しさを知っていただくという目的で、こどもの日は小学生以下の子どもを対象に無料開放しております。

利用状況につきましては、残念ながら2年連続の減少となっています。この減少の理由につきましては、はっきりとこれだという分析は出来ませんが、ゴールデンウィークの昨年・今年につきましては、時期が早いということ、天候にもかなり左右され、また遠出をされる方が毎年多くなっていることも考えられます。また施設そのものの利便性、内容、サービスの問題、またプールは無料であるけれども駐車場が有料であるなど様々な理由が考えられます。今後につきましては、PR方法も含めながら、多くの方にご利用いただけるように検討していきたいと考えています。

（奥寺委員長）

無料開放することは良いことだと思いますが、普段の利用状況には繋がっていますか。無料開放は、せっかくの機会なので、普段の利用率向上に繋がるように取り組んでほしいです。

(スポーツ課長)

こどもの日の利用と日常的な休みの日のこどもの利用の人数は大きく変わっていません。また、来られる方につきましても、近所の子ども達が多く、今まで利用していないのだけど、こどもの日だから来たという子があまりいないことも分かってきました。今委員からご指摘あったように、魅力ある無料開放、内容的なものも含めて考えていかないといけないと考えております。

今まで、あまり水に親しまない子がこれを機会に水に親しめるような、工夫を考えていきたいと思えます。

(奥寺委員長)

多くの方は民間のスイミングスクールなども利用しているのでしょうか、ここではスクールのことはやっていないのですよね。難しいのですが、スクールなどもあれば集まるということも考えられると思えます。

(出光委員)

スクールをやっていないとすると、配置している指導者というのはどのようなことをされているのですか。

(スポーツ課長)

これにつきましては、泳げない子ども達がいたときに、アドバイスするということで指導者を配置しています。その場での指導ということで、講習会ということではやっていません。

(出光委員)

アクアビクスなどもあれば幅は広がるのではと思えます。

委員長 他に質問はなく、次の報告事項を聴取することを宣言

(スポーツ課長)

平成19年度の横須賀市中学校総合体育大会についてご報告させていただきます。中学校総合体育大会、通称「中総合」と呼ばれているものでありますが、4月21日の土曜日に横須賀アリーナにおきまして、2,700名ほどの子ども達が参加して、総合開会式が行われました。

以後ゴールデンウィークの期間を中心に市内各会場で約7,000名の中学生が12種目に分かれて、熱戦を繰り広げて、無事終了したことをここに報告させて

いただきます。今年で56回という歴史を重ねている大会でもありまして、今後もより一層盛り上がった大会になるように、中学校体育連盟とともに開催をしていきたいと考えております。参考までに横須賀市の中学校の運動部活動におきましては、年々入部率も増えております。また入部率だけではなくて、生徒数減少と逆に、入部部員そのものも増えております。生徒も先生方も大変頑張っておられるということをつけ加えてご報告をさせていただきたいと思えます。水泳につきましては8月25日、駅伝につきましては、10月25日ということで、季節の問題等もございまして、時期を変えて開催しております。特に駅伝大会につきましては、私立の横須賀学院中学校を含めて市立全中学校も合わせて、学校をあげての一大イベントとなっております。是非一度ご観戦いただければと思います。

(出光委員)

この結果については勿論公表されますよね。選択制で中学校を選ぶ際に、保護者の方などが、この結果なども見て、こういう部活のところに行きたいと参考にされるのですかね。

(学校再編担当課長)

部活の活動等も保護者の方・6年生の児童が、選ぶ重要な要素になっていると聞いており、アンケートからも出ております。そういうために、部活動を見学する期間とか授業を見学できる期間として、学校へいこう週間を各中学校で設定していただくようお願いしております。実際に部活動を小学生が見にいて、一緒に参加して、中学生とバレーボールやバスケットボールをしたりというのを各学校ではやっていただくようお願いしております。今月には中学校の教頭会にお伺いして、このような活動を充実して行っていただくようお願いしております。

(生涯学習部長)

補足になりますが、例えば武山中学校でしか体操をやっていないので、体操をしたいなら武山中学校に行かなければならないという懸念があるかも知れませんが、そうではありません。個人的にやっている場合でも、現在在籍している学校のままだと地区総合には出れます。その点についてご承知いただければと思います。

委員長 他に質問はなく、次の報告事項を聴取することを宣言

(教育研究所長)

平成17年度・18年度の横須賀市の長期欠席及び不登校状況についてご説明いたします。本日配布させていただきました資料をご覧ください。

不登校とは、病気や経済的な理由による欠席を除いて、児童生徒が何らかの心理的、情緒的、社会的要因や背景によって年間30日以上欠席した状態であることを言います。

まず小学校の状況ですが、平成17年度は年間の不登校総数が86名、不登校出現率が0.39でした。出現率とは、全児童生徒数に占める不登校児童生徒数の割合です。不登校児童・生徒数に占める学校に通えるようになった児童・生徒数の割合を復帰率とといいます。また、学校に通えないまでも何らかの状態改善が見られる児童生徒数の割合を改善率とといいます。平成17年度の復帰率は29.1%、改善率が16.3%でした。

本市では、不登校の生徒数を減らすこととともに、不登校になった児童生徒がいかに改善できるかに重点をおき、この復帰率と改善率を指標として対策を行っています。18年度の不登校総数は127人、出現率は0.57と17年度に比べて増えておりますが、17年度までは病欠と捉えていた人数を、18年度はより実態に即して不登校であると判断しカウントしたためです。不登校の背景に関する認識が深まった結果であると考えられます。

次に中学校の状況です。平成17年度の中学校の状況は、不登校総数534人、出現率は5.10%、復帰率30.3%、改善率24.3%でした。出現率の月別の推移はそれぞれ表の通りです。

(齋藤委員)

中学校についてですが、年間通しての人数は17年度と18年度とほぼ一緒ですが、17年度の復帰率が3割にも関わらず、18年度とほぼ総数が同じということは、新たな不登校というのが出ているということかと思うのですが、そのような理解でよろしいでしょうか。

(教育研究所長)

新たなと捉えるかどうかはわかりません。4月当初は頑張って登校しますので、4月当初復帰率ということで計算できるのですが、その後戻ってしまう数も多いので、総数では大体変わらないということになっています。

(齋藤委員)

学年による傾向というのがありますか。

(教育研究所長)

やはり中学3年生の入試の時期や、中学校1年生の4月・5月、9月は、多くなっています。

委員長 他に質問はなく、次の報告事項を聴取することを宣言

(教育研究所長)

横須賀市の不登校対策として、A値を活用することについて説明いたします。A値は、不登校だけでなく、病欠や家庭事情も含めたすべての欠席日数に保健室や校長室などへの登校日数を加え、遅刻早退数の半分の数字を足して計算します。国立教育政策研究所の調査により、小学校4年生から6年生までのA値が高かったこどもは、中学校1年生で不登校になる割合が高いこと、また中学入学後、4月から欠席が増え始め、7月の時点で欠席日数が30日を越える割合が高いことがわかりました。小学校時代、A値が1回も15日を越えたことのない中1不登校生徒は、2割強にすぎないこともわかりました。そこで、いわゆる中1ギャップと呼ばれる、小学校6年生から中学校1年生にかけて不登校者数が激増する現象には、小学校時代の欠席、遅刻、早退は明らかな相関関係があるということに注目し、不登校の対策にA値を活用することにしました。不登校は現象として現れる中学校だけの問題ではなく、小学校時代から継続しているものと捉え、効果的な小・中連携が必要であると考えます。A値導入の視点は、単なるデータ収集やこどもへのレッテルを張るようなものではなく、統計的に把握し、A値を活用することで、こどもの状況を的確に、かつ丁寧に把握し、適切に支援すること、また不登校の未然防止、早期解決につなげることができると考えています。

具体的な取組として、小学校では4年生以上の児童を対象にA値が15日を越えたこどもの情報を把握し、その時点で適切な関わり方をすることと、それらの情報を中学校に提供し、小中連携を図るようにします。中学校では、情報を活かし、小学校での支援体制の成果を活用し、登校支援担当者などを中心としたチームによる早期対応を行い、状況の改善をめざします。

(出光委員)

今説明いただいた背景のなかで、いわゆる中1ギャップは、全国的にはおよそ3倍の結果、横須賀市では約4倍の結果ということで、あまり芳しい状況ではないのですが、そのあたりの理由はあるのでしょうか。

(教育研究所長)

その点についてまだ正確な分析はできておりませんが、数が多いということは問題として取り上げております。

委員長 他に質問はなく、次の報告事項を聴取することを宣言

(美術館運営課長)

お手元の資料に基づきまして、美術館の内覧会及びゴールデンウィークの入館者数などにつきましてをご説明させていただきます。内容でございますが、来館者の状況ですとか、アンケートを実施しておりまして、その集計の速報等につきましての説明となっております。

下側のページは、4月28日のオープニングセレモニー及びオープニング記念イベントでございます「ガリバーキャンバス」「顔かおレンガ」と内覧会の様子を写したものであります。

内覧会の参加者数は、左手側に記載しております。ページをおめくりいただき、1をご覧ください。1は、平成19年度のゴールデンウィークにおきます入館者・観覧者の日別推移を表わしたグラフであります。水色の棒が入館者数、ピンク色の棒が観覧者ということで入場券をもって美術的コーナーまで入っていただいた方となっております。その下のグラフ2でございますが、ゴールデンウィークにおきます入館者の時間推移を表わしております。下側のページに実際の実績数値並びに傾向等を文章として記載しております。

続きまして右側のページの上をご覧ください。3の円グラフでございますが、そちらは観覧者の方の構成でございます。最も多いのが、一般料金の観覧者でございます。全体の56.3%を占めます。次に多いのが、高校・大学・65歳以上という割引料金の観覧者で全体の15.6%。注目すべきところは、第3位、円グラフ2の黄色部分になりますが、小学生の来館でございます。全体の10.6%にあたります。この集計期間が、ゴールデンウィーク中であることもございますので、多くの子どもたちが美術館に来館してくれたということになります。率的には2.6%となりますが、濃い水色の部分こちらが障害者の方、実数にしますと約400人の方にご来館をいただいております。

下側の文字の部分であります。ただいま申し上げましたグラフが文字として記載しております。お手数ですが、資料を1ページおめくりください。左側の上の4のグラフは、美術館の2階部分に設置をさせていただいております図書室の利用の同じくゴールデンウィーク期間の日別の推移を表わしております。棒グラフで緑の部分が大人の方、黄色の部分がこどもの方となっております。それから5ですが、こちらは先程冒頭で説明いたしましたゴールデンウィーク中のイベント、青い方がガリバーキャンバスの参加者数、オレンジの方が、顔

かおレングの参加者数をグラフにしたものでございます。同じく下側に、ただいまご説明を申し上げました図書室の利用・イベント参加の数字その他について文章として記入してあります。その下の黒い四角で、私達の来館者という、数字に対する考え方を記載してあります。

としまして、図書室の利用には美術品を観覧する観覧券は不要でございます。一般の図書館と同様に無料でご利用いただけます。としまして、横須賀美術館にはワークショップ室という部屋を、いわゆる体験型の活動していただくという美術館事業の教育普及活動推進の部屋がありまして、こちらも美術館利用者でございます。この利用者の数字の把握というのは、申し込みをみたりすれば、ある程度把握できるのですが、その方々が美術品を観覧したか否かまでは把握できません。これらを勘案しまして、来館者を美術館を訪れた人、観覧者を実際にチケットをもって美術品の展示を見た人、二つの数字を並列でお示しすることとさせていただきます。

次に右上に移っていただき、7ですが、アンケート結果の速報でございます。まず7-1がいつアンケートを書いたかという来館した日。右側7-2がお客様の年齢層。左下の7-3はお客様がどちらから訪れたかの数字を表わしております。特に7-3は来館者がこられた地域の集計でありまして、半数以上が市内でございます。県内、県東部・県央・県西部の県内合計が16.7%、都内が5.1%となっております。

今後は、市内は勿論ですが、市外からのお客様を増やすようにすることで、継続的な来館者数の獲得につながるような努力と方策が必要であると考えております。次に右の下側のグラフでございます。こちらが今回の展覧に対するご意見でございます。まだ一部集計でございますので、内容を書いてある文言の集計にはいたっておりませんが、集計の途中で3回ほど読みまして、そこそこの意見に建物はよいのだけど、展示の内容に工夫をといった趣旨のご指摘が多く見受けられまして、今回は開館直後でございますし、お越しいただいたと思いますが、施設と建物がマッチしてありまして、魅力的な要素があるために集客につながっているというところでありまして、今後の更なる集客のためには、これらのアンケート結果を踏まえた作品の展示等の工夫が引続き必要だと考えております。

資料を1枚おめくりいただいて、左の上側に文章でお示ししてありますのが、ただいま申し上げたことを文字で表現したものです。左側の下のグラフをご覧いただきたいと思っております。こちらが、お客様が再び訪れたいかという再来館の意向を調査したものです。グラフ7をご覧いただきますと、上の部分無回答が17.5%でございます。これを按分いたしますと、再来館の意向は、全体の58.1%となります。今後この数字がもっとあがるような努力が必要となります。右側

の上、7と書いた部分が、ただいまご説明させていただいたものを文章として表示させていただいたものです。詳しい説明は省略させていただきますが、傾向と対策の部分でございますが、今後の検討課題として対応と工夫を図っていきたいと考えております。右下の最後の部分でございますが、5月12日に本市の百周年記念の事業のひとつでございますYOKOSUKA国際交流フェスタの帆船パレードでございまして、美術館の目の前を優雅な帆船が通っていきまして、たくさんのお客様がご覧になりました。

(齋藤委員)

開館前の予想に比べて来館者数はいかがですか。

(美術館運営課長)

開館前は、ゴールデンウィーク9日間の目標を2万人と設定しておりました。館を訪れていただいた方についてはこの想定 of 2.5倍、展示をご覧いただく方にすると4分の3、75%強というところですので、非常に微妙な結果となりました。

(齋藤委員)

アンケートの中で、また来たいと来たくないというのが実にはっきりと分かれてしまっていて、これはおそらく特別展に対しての来られた方の受け取り方だと思うので、美術館も音楽もそうなのかもしれませんが、その道のご専門の方とそうでない方とでかなり受け取り方が違ってしまうのだらうと思うので、どちらかに偏ってしまってもいけないと思うのですが、その辺について今後の企画展の運営方針について、今の簡単な印象で結構なのですが、どのようにお考えでしょうか。

(美術館運営課長)

美術館の立地を考えますと、季節感を生かすことは大変大事だと思います。そのような展示をなるべく心がけていくことを考えております。

もうひとつは、今回のアンケートの期間はゴールデンウィークの9日間ですが、ゴールデンウィークで考えれば親子連れのお客様が多いことが想定されますので、やはり世代を越えて理解されやすい展示を心がけるのが流れといえますか、その季節・その状況下におけるお客様の構成を想定するということは重要であることを内部で議論させていただいております。

(教育長職務代理者)

お客様の声のなかで、展示の方法についての意見はありましたか。企画展の最初に入って来たところからの導入経路とか、展示の順番なども検討の対象となりますか。

（美術館運営課長）

アンケートを読む限りと、内容における順番という観点でアンケートを書いている方と、あの建物自体の動線が分かりにくいという意味での順番というのをおっしゃっている方と大きく2種類に分かれております。両方をごっちゃにしないで分析をしていって、物理的な動線と展示の流れという2つの内容の分析が必要だという風に現時点では捉えています。

（教育長職務代理者）

今回のケースの場合は、最初の展示でインパクトが強すぎたとかそういう声はありませんでしたか。

（美術館運営課長）

アンケートは9と書いてあるページに書いてあるのですが、賛否両論真っ二つです。NOという回答の方と同率で、評価できるというお客様もおりまして、芸術学的には委員のご指摘にもありましており、難しいところであります。

一番目がショッキングであったかどうかというそういう書き方をされているアンケートは実際にはほとんどなく、逆にインスパイアされたとか、もっと刺激的なものを出しても良かったのではないかというご意見もありました。またご年配の方々は、いきなり入ってあれでは、順番を踏んだ方がいいのではというようなご指摘も散見はされましたが、そういった意味でのご指摘はあまり多くはありませんでした。逆に物理的順序に対してのご指摘が多かったと感じております。

（生涯学習部長）

現代アートの難しいところのご指摘をいただいていると思います。こういうところでご指摘いただくのも現代アートであろうと思っております。そういう意味では、様々今回の企画展のなかでいろいろと学ばせていただいているのは確かでございますので、愛される美術館が、誰にといいところがいけば、全て玄人だけではまずいわけですので、今課長が申しましたとおり、いろいろとまた集客とかお客様のニーズといったものを考えながら、美術館を、いただいた課題を含め検討していきたいと考えております。

他に質問等はなく、以後の議案が人事案件のため秘密会となることを宣言。
関係理事者以外の退席を求めた。

(以降秘密会)

6 閉会及び散会の日時

平成 19 年 5 月 25 日(金) 午前 11 時 00 分

横須賀市教育委員会

委員長 奥 寺 康 彦